



ならっ子だより



守りつ、地域の子どもたち 毎月17日は「子ども安全の日」です。



古都奈良に春のおどろきを告げる

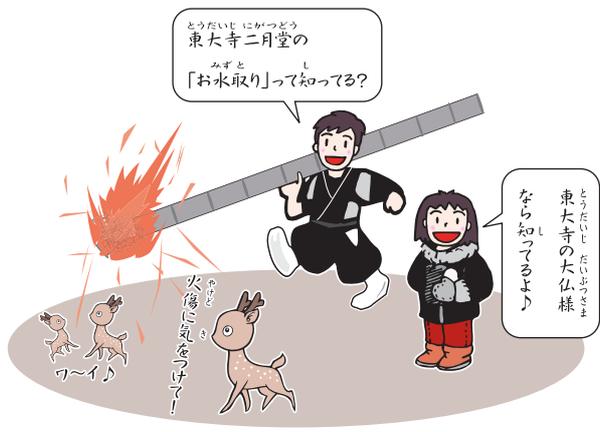
東大寺二月堂修二会（お水取り）



東大寺二月堂の修二会は、天平勝宝四（752）年、東大寺を開いた僧である良弁さんの弟子の実忠和尚がはじめたと伝えられています。「不退の行法」として、1250年以上一度も途切れることなく続けられ、今年で1258回目です。

「修二会」では、「十一面悔過」という法要（仏教の儀式）が行われ、練行衆と呼ばれる十一人の僧が本尊の十一面観音に、一年間の罪を悔過（おわびをすること）し、世の中が平和であること、食物が豊かに実ること、人々が安心して暮らせることなどをお願いするために祈り続けます。

今年は、二月十五日から、別火とよばれる前行が始められ、三月一日から十四日まで本行が勤められます。



3月1日から14日まで、練行衆がお堂に上がるとき（夜の法要のため）、足元を照らすために大きな松明がたかれます。3月12日以外は毎日10本、12日だけは大きな籠松明が11本上がります。この松明の材料となる真竹を東大寺までとどけるのが「竹送り」です。松明の火の粉を浴びると1年間元気に過ごせるといわれています。

3月12日の深夜から13日未明にかけて行われる行事で、若狭井と呼ばれる井戸から「香水」をくみあげる行事のことです。伝説では、実忠さんが、神様たちを法要へお招きしたところ、遅れてやってきた若狭（福井県）の遠敷明神がおわびに自分の住む川の水を二月堂のほとりまで湧き出させて、観音さまに差し上げたのが若狭井です。



（上）お水取り…二月堂にお香水をくみ上げる様子
（下）内陣掃除…本手水（休憩）の間、内陣の掃除をして走りの行に備える様子

写真：木村昭彦さん

【問合せ】学校教育課（☎0742・34・4763）

学校新聞 鼓阪小学校の巻

角切りの行事に選ばれる鹿は、どのような鹿でしょうか？

りっぱな瓦葺の建物がある鼓阪小学校は、創立135年を迎えました。校区の「ひと・こと・もの」から学んだことを、地域に情報発信する場として取り組む「つざかフェスタ」。

東大寺、正倉院、転害門、北山十八間戸など、多くの歴史遺産に囲まれた学び舎で、「つざかのステキ発見」をテーマに取組を進めています。

最初の質問は、今年の「つざかフェスタ」で四年生が出したクイズの一つです。答えは、角切りに耐えられる丈夫なオス鹿です。